

## 小学生の部 特選

飛騨市立神岡小学校 六年 蒔田 実音

「大きくなったらなになりにりたい?」

いつも聞かれるこの言葉。私はそのたびに、「お花屋さん」「ドクターヘリに乗る医者」と、たくさんのなりたいものがあった。

六年生になった今、私のなりたいものは決まり始めている。それは、作家だ。

私は、小さいころから本を読むことが大好きだ。いろいろなジャンルを読む中で、特に物語に夢中になった。

物語には、不思議な力がある。誰でも本の世界に入って行ける。そこではみんなが主人公になって、いろんな気持ちを感じながら、たくさんの知らない世界を見ることが出来る。

私は、少し前に大きな悩みで苦しんでいたことがある。そんな時に本を読むと気持ちが楽になった。それは、いろいろな気持ちにふれることで、自分の進む方向が見えてきて、悩みが少しずつ消えていくように思えたからだ。本の世界の人たちといっしょに、よろこんだり悲しんだりすることで、もやもやしていた気持ちが晴れてくるような気がしてくる。

そして、本の中にあるいろいろな言葉は、私が苦しい時、たくさんの力をくれる。言葉の力に私は支えてもらっている。

「いくら傷ついても、人とのつながりを切ってはいけないよ。傷つけるのも人だが、なおしてくれるのも人だからね」

「みんなにとってはひつようななくても、だれかにとっては、ひつようなものつてあるでしょ」  
これらの本の言葉たちは、今の私に一番必要な力をくれた。

だから、次は私が言葉の力で世界中の人に本を届けたい。そのために、もっとたくさんの本や言葉に触れたい。そして、いろいろな事を経験して自分の世界を広げていきたい。そうしたら、きつとたくさんの人の支えになるような本を書いていけるだろう。

「大きくなったらなになりにりたい?」

「もちろん、私の夢は作家」